

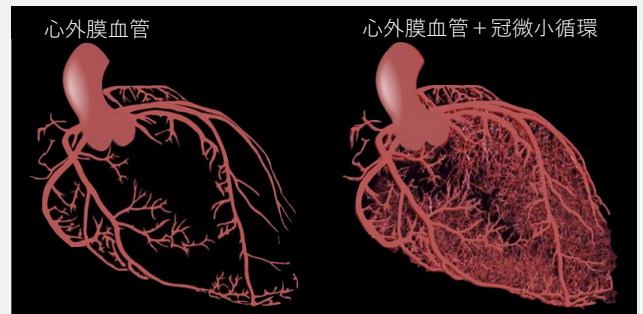


## Topics ~循環器診療に役立つ、最新の話~

## CMD診断スタート—冠微小循環障害への新たな一歩

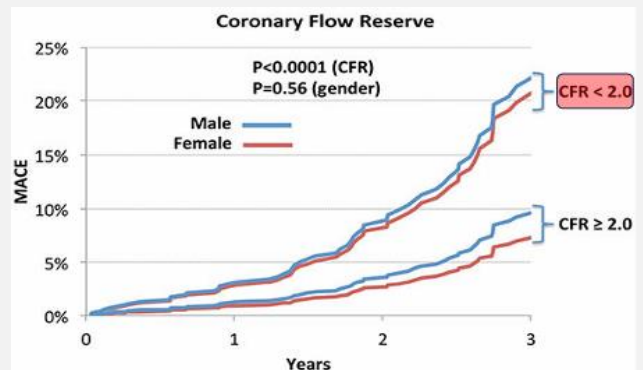
## 冠微小循環障害 (CMD) について

CMD (coronary microvascular dysfunction) は、冠動脈の微小血管において狭窄や攣縮、拡張障害等が原因で生じる障害です。冠動脈造影で有意な狭窄を認めない心筋虚血 (INOCA: ischemia with non-obstructive coronary artery disease) において主要な原因の一つですが、CMDに関する情報はまだまだ不十分なのが現状かと思えます。冠微小循環は心臓の95%を占めると言われており、虚血性心疾患、一次性心筋症、たこつぼ型心筋症や心不全 (特に駆出率が保たれたタイプ) など多くの心疾患に影響を及ぼします。CMD患者はQOL低下だけでなく、3年後死亡リスクが約4倍、冠動脈疾患リスクが約5倍以上とされ、早期診断と治療が求められます。



## 診断と治療

診断には心臓カテーテル検査が推奨され、CFR (冠血流予備能) やIMR (冠微小血管抵抗指数) の測定が行われます。治療については、 $\beta$ 遮断薬やカルシウム拮抗薬、ニコランジルを用いた薬物療法が中心ですが、今後CMDの診断が広がれば、他心疾患リスクも考慮し包括的な薬物加療がされていくと考えられます。



## 当院の取り組み

当院では2025年1月より、CMD評価用のカテーテル検査機器を導入しました。冠動脈造影やCTで狭窄がないと診断された患者様の中でも、狭心症状が続く場合にはCMDや冠攣縮の可能性をスクリーニングし、正確な診断に努めて参ります。

当院のPCI件数は2024年も700件を超え、昨年もたくさんのご紹介をいただき、誠にありがとうございました。引き続き患者様の診療に尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

\*figure Taqueti et al. Coronary Microvascular Disease Pathogenic Mechanisms and Therapeutic Options. JACC 2018.

文責 循環器内科 石塚 淳史

## スタッフ紹介 Vol.30



病院顧問 循環器内科 医師  
1981年 日本医科大学卒  
小林 義典

昨年4月よりお世話になっております。

日本医科大学第一内科で勤務した後、2009年に東海大学へ移り、計44年間大学病院で働いてきました。最後の10年間は病院管理を中心に従事しておりましたが、かわぐちでは外来診療に尽力したいと思っております。趣味はスキーとジャズで、スキーは30代から始めたバックカントリースキーを続けており、現在は2000m級の山を目指しています。ジャズはヤマハのシンクルームを活用し、仲間とネットで演奏を楽しんでいます。廊下などでお会いしましたら、ぜひお気軽にお声がけください。

過去のハートチーム通信はこちら →

